

JAいわてグループ 自己改革取組事例集



平成 30 年 11 月

 JAいわてグループ

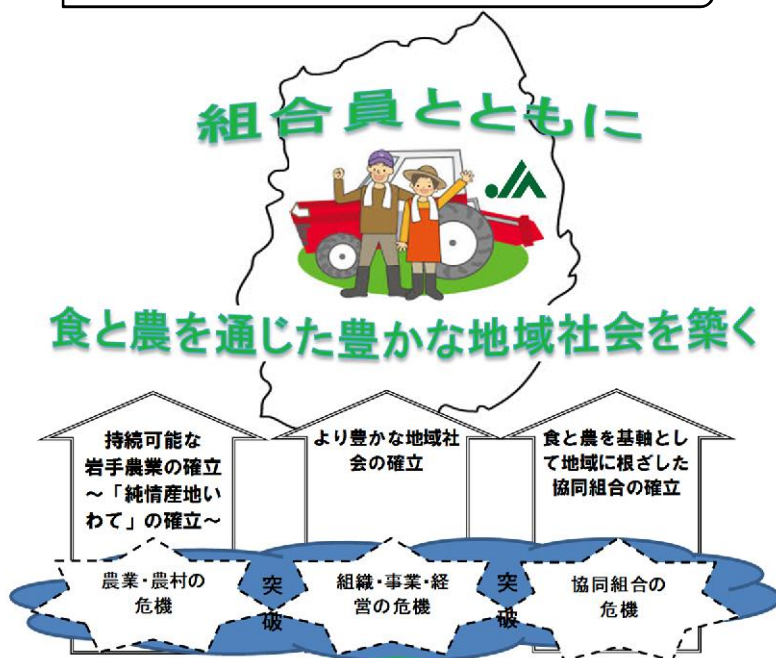
JAいわてグループの自己改革

JAいわてグループは、正組合員である農業者の営農と生活を支える総合事業を展開し、あわせて准組合員から必要とされる生活サービスを提供することにより、農業振興、地域振興、農業・農村の多面的機能発揮などに重要な役割を發揮してきました。

本県において人口減少や高齢化の進展は一層すすむことが想定され、農業生産基盤の衰退がすすむなか、地域の農業や社会が急速に姿を変え、地域社会・経済の疲弊とともに人と人とのつながりの組織であるJAの組織基盤が弱体化するなど、危機に直面しています。

こうした情勢の中、JAいわてグループでは、平成27年11月開催の「第44回JA岩手県大会」決議に基づき、自己改革に取り組んでいます。また、次の3か年（2019年度～2021年度）は、これまで取り組んできた自己改革の成果と今後のさらなる取り組みが問われる期間となることから、取り組みの成果をしっかりと組合員・役職員、社会一般に発信していくとともに、3つの基本目標（「農家組合員の所得増大・農業生産の拡大」・「地域の活性化」・「協同の強化」）へのさらなる挑戦と、総合事業の展開を前提とした「自己改革の実践を支える持続可能な経営基盤の確立」に、組織をあげて挑戦していきます。

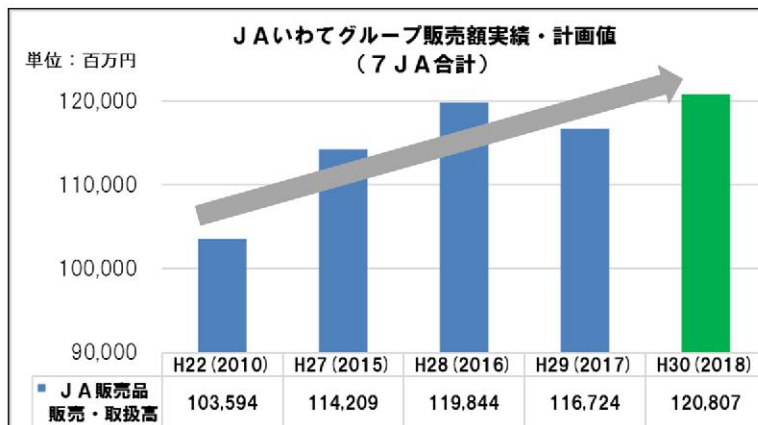
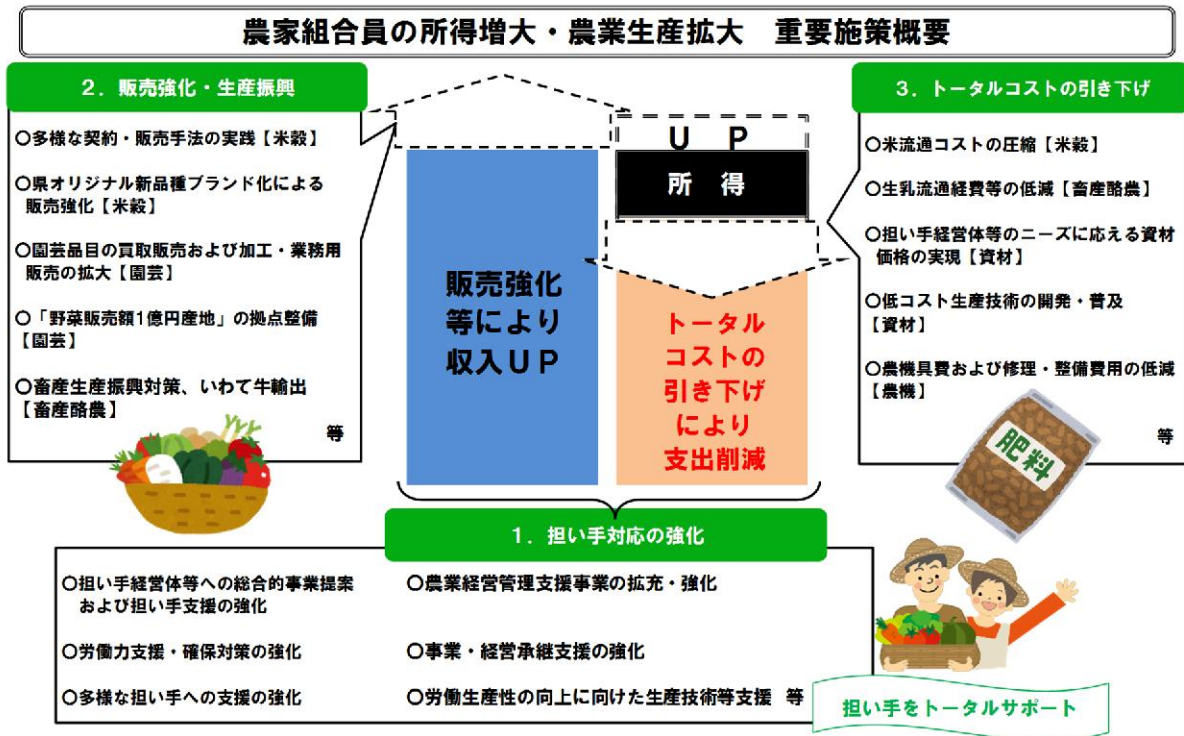
JAいわてグループがめざす姿



JAいわてグループ 自己改革へのさらなる挑戦

「農家組合員の所得増大と農業生産の拡大」へのさらなる挑戦	「地域の活性化」へのさらなる貢献	「協同」のさらなる強化
自己改革の実践を支える持続可能なJA経営基盤の確立・強化 (総合事業の継続が前提)		

自己改革の取り組みについては、特に「農業者の所得増大、農業生産の拡大」を、最重点課題として、「担い手対応の強化」、「販売強化・生産振興」、「トータルコストの引き下げ」に取り組んでいます（下図参照）。



資料：『岩手県農業協同組合データ集計表』より
 ※H30 (2018) については、計画値 (J A 3 か年計画等より)

自己改革の取り組みについて、各 J A では、数値目標・行動計画等を明らかにした「自己改革工程表」を策定し、組合員・役職員で共有するとともに着実な実践と振り返りを行っております。また、「販売品販売高目標」を地域の共通目標として取り組んでいます。この結果、J A いわてグループにおける販売品販売・取扱高は上昇傾向にあり、その成果が着実に表れてきています。

また、地域の活性化、暮らしやすい地域づくりに向けた取り組みもすすめており、総合事業を通じた生活インフラ機能の発揮や、J A ぐらしの活動を通じた地域コミュニティの活性化、高齢者福祉などの健康づくり活動などを実施しています。

本資料は、自己改革の取り組みにおける、県内 7 J A および J A 全農いわての「農家組合員の所得増大・農業生産の拡大」、「地域活性化」にかかる代表的な事例をまとめたものです。今後も様々な取組事例を積み上げ、地域の農業振興に貢献できるよう農家組合員の皆様への農業経営サポートに全力で取り組んでいきます。

JA 新いわて【正組合員数 20,366 人 販売品販売高 46,718 百万円（平成 29 年実績）】

<担い手対応強化（担い手支援）の取組み>

地域農業振興計画の実現へ（キーワード：販売額 500 億円）

地域農業の振興と組合員の所得向上、経営基盤の安定化を柱として、農畜産物販売額 500 億円を目標とする「地域農業振興計画」を策定し、役職員一丸で取り組んでいます。「地域農業振興計画」の実現に向けた支援策として、「農業振興対策事業」を平成 22 年度から実施し、様々な支援を行っています。



畜産・酪農生産拡大事業による簡易牛舎の新築

担い手支援対策事業（キーワード：トマト、ブロッコリー生産拡大）



トマト生産の新規就農支援

地域農業振興計画にもとづき、平成 29 年度から 3 か年、「JA 新いわて担い手支援対策事業」を設け、平成 30 年度は 3 千万円を事業予算とし、若い担い手に特化して支援しています。支援の成果としてトマト（ミニトマト含）の作付面積（内・新規 3 戸）、およびブロッコリーの作付面積が増加しています。

<マーケットインによる販売事業強化（生産振興の取組み）>

野菜販売 120 億円産地育成会（キーワード：野菜販売 120 億円）

「日本一の産地チャレンジ運動」を展開しており、その中で野菜の販売は 120 億円を目標としています。主要な販売先である重点市場との情報共有を行う、生産者、JA、全農、重点市場 6 社が四位一体となった「野菜販売 120 億円育成会」を設置し、チャレンジ単価の設定や、物流対策、販売対策等の情報共有を行い、有利販売に取り組んでいます。



野菜販売 120 億円産地育成会

野菜応援隊（Monzla Skasyells）によるPR（キーワード：女性生産者によるPR）



東京卸売市場での販促活動

野菜産地としてさらに、管内の野菜のPRを強化し、野菜の魅力を発信することを目的に、平成 28 年度から 3 人の女性生産者（野菜生産者）を応援隊として委嘱し活動を行っています。東京卸売市場でのトップセールスや園芸産地出荷式などで、女性生産者ならではの思いを発信し、管内野菜のPRを行っています。

JAいわて中央【正組合員数 10,159 人 販売品販売高 9,942 百万円（平成 29 年実績）】

<担い手対応強化（担い手支援）の取り組み>

無料職業紹介所の開設（キーワード：労働力確保支援）

管内農家の労働状況は、農作業労働者が減少し、特に中核農家の生産体制に大きく影響していました。そこで、繁忙期に安定した労働力を供給し、農産物販売高を高め、管内農業を維持・発展させていくために労働力を支援する仕組みとして、平成 29 年 2 月から無料職業紹介事業を行っています。



農作業の作業内容の確認

<マーケットインによる販売事業強化（生産振興の取り組み）>

販売専任部署の設置による販路拡大へ（キーワード：直接販売米・リンゴ輸出拡大）



販売促進の取り組み

平成 29 年度に設立された販売対策課が中心となり、これまで実績を深めてきた取引先との関係強化や新規市場開拓に取り組んでいます。米穀では直接販売の取り扱い実績が増加しており、中間経費の削減等、組合員の所得の向上に寄与しています。また、園芸特産では、リンゴの海外輸出に積極的に取り組んでいます。

リンゴ輸出拡大（キーワード：輸出用リンゴ予冷施設建設）

タイ、ベトナム、台湾につづき、2018 年はカナダに向けても輸出を始める方向で取り組んでおり、リンゴの輸出量増加に対応するため、輸出用りんご予冷施設を新たに建設し、鮮度保持期間を延長するスマートフレッシュ処理室を増やしました。鮮度保持により、国内外へ向けた有利販売の取り組みを強化していきます。



新予冷施設落成

<生産から販売までのトータルコストの引き下げ>

農家手取り最大化（キーワード：コスト削減）



生産者の圃場現地視察

稲作農家の課題に対応し、農家手取り最大化に向け JA・全農が連携し、モデル農家へ生産資材コスト低減や省力技術による労働費削減および生産性の向上等の実践メニューの提案を行っています。平成 28～30 年度までの 3 年間、モデル農家固定実践による農家手取り 20%UP を目指す取り組みを進め、今後、横展開をはかります。

JAいわて花巻【正組合員数 22,147 人 販売品販売高 23,374 百万円（平成 29 年実績）】

<担い手対応強化（担い手支援）の取り組み>

「農の匠」制度と連携した営農指導強化（キーワード：営農指導強化）

農家組合員の所得向上と農業生産の拡大に向けた営農指導体制強化のため、地域の中核農家を「農の匠」として任命し、経験と豊富な知識を使った実践的な指導のほか、JA 営農指導員への助言等によって、生産現場から一貫した指導販売体制の構築に取り組んでいます。



「農の匠」による実践的な指導

若手りんご生産者グループの活動支援（キーワード：生産者活動支援）



若手生産者による子供たちの収穫体験

果樹部会に所属する若手りんご生産者が生産技術の向上を目的に、「THE RINGO STAR（ザ・リンゴ・スター）」というグループを結成し、生産技術の向上や県内外で販売促進などPR活動を行っています。JAでは、若手生産者の仲間づくりや生産技術向上に向けた支援を行い、産地化の核となるグループづくりを積極的に進めています。

<マーケットインによる販売事業強化（生産振興の取り組み）>

第2次アスパラガス倍増運動（キーワード：グリーンアスパラガスの産地化）

94haの作付面積からスタートし平成29年には約130haまで面積拡大したグリーンアスパラガスは、県内トップの作付面積と販売高を誇っており、コンビニエンスストアチェーンへ材料供給をするなど販路拡大にも取り組んでいます。ブランド力向上に向け、180haの作付を目指し、技術指導を展開して安定生産と経営技術向上をはかっています。



材料供給をしたコンビニエンスストア商品

<生産から販売までのトータルコストの引き下げ>

生産資材コストの低減・奨励による支援（キーワード：オリジナル水稻基肥開発）



水稻基肥「愛農土シリーズ」の成分見直しをはかり、現行品よりも10a当たりの施肥量を10kg低減するよう設計を変更し、平成30年産米用から供給しています。また、肥料・農薬の購入金額に応じて交付する「肥料大口農家対策」「農薬大口農家対策」「農薬担い手生産組織対策」等の奨励対策により生産者支援を行っています。

<担い手対応強化（担い手支援）の取り組み>

新規就農者支援制度（キーワード：農業マイスター制度）

新規就農者などがベテラン農家から栽培・出荷を学ぶ事ができる「農業マイスター制度」を実施し、新規就農者の支援を行っています。この制度等を活用した若手ピーマン生産者がグループを組織しており、JAでは生産・出荷をはじめ意見交換会や先進地研修等、技術向上に向けた取り組みの支援を行っています。



若手ピーマン生産者

事業承継支援の取り組み（キーワード：農業後継者支援）



税理士による相談会

担い手農家における後継者へ事業を引き継ぎ、農畜産物の生産量を維持していくために、事業承継（相続等の対応）は重要な位置づけになっています。事業承継について、税理士等専門家を交えて、農業経営改善計画の作成、制度資金の借入申請などの支援を行っています。

<マーケットインによる販売事業強化（生産振興の取り組み）>

東北一のピーマン産地へ（キーワード：選別機導入）

ピーマン生産者の選別作業の軽減をはかり、栽培面積の拡大・反収向上につなげるため、ピーマン形状選別機を導入しました。形状・大きさを識別でき、尻腐れ果を検出できる装置を全国で初めて導入し、自動箱詰めシステムを県内で初めて取り入れました。尻腐れ果を検出する等により市場からの要望にも対応し、販売強化をはかっています。



ピーマン形状選別機

「前沢牛」地理的表示（GI）保護産品登録（キーワード：県内初GI登録）



商品ラベルに「GIマーク」が追加されます。

JA岩手ふるさとでは、地域特性を生かした産品を知的財産として国が保護しようとする「地理的表示（GI）保護産品」に「前沢牛」を申請し、2017年3月に岩手県初のGI産品として登録されました。これを機に肥育農家の意欲を更に高めるとともに、ブランド価値を高め全国各地や世界の消費者へ「前沢牛」を発信し新たな需要の掘り起こしや認知度の向上に取り組んでいます。

J A 江刺【正組合員数 4,178 人 販売品販売高 6,260 百万円（平成 29 年実績）】

<マーケットインによる販売事業強化（生産振興の取り組み）>

最新型りんご選果機の導入（キーワード：県内初の糖度自動印字システム）

新たに導入したりんご選果機は、蜜入りの度合いや内部の熟度、変質、色や形、大きさを判断して選別ができるほか、箱のバーコードから等級を読み取り、糖度を自動印字する県内初のシステムを備えています。消費者ニーズの多様化に対応し、付加価値向上と品質の均一化をはかり、「江刺りんご」のブランド確立に取り組んでいます。



新たに導入した選果機

江刺りんご高付加価値化への取り組み（キーワード：トップセールス実施）



市場でのPR

「日本一の高品質なりんご産地を目指す」をスローガンに、高糖度商品の流通や糖度表示などに取り組む、差別化を図ることにより消費者から選ばれる商品の提供に取り組んでいます。知名度向上と需要拡大に向け、トップセールスの東京、大阪、盛岡の3会場での開催や生産部会と連携した販売強化と新規取引先の開拓をはかっています。

江刺金札米新デザイン・PB商品開発（キーワード：キューブ型の真空パック）

広い年齢層に受け入れられることを目的にJ A 江刺プライベート商品である江刺金札米米袋のデザイン変更を行いました。キャンペーンや販促活動により、デザインの定着を図っていきます。また、新たな販路の開拓を目指し、贈答商材への参入を狙い、キューブ型の真空パック米商品の開発および施設の整備を行い、米の消費拡大をはかっています。



ひつじ部会の設立（キーワード：国産羊肉の産地化）



生産拡大しているメン羊

国産ラム肉はフランス料理店などからの引き合いが強く、J A 江刺管内ではメン羊の子羊生産が拡大してきています。14 戸が約 100 頭を飼育していますが、需要に供給が追いつかない状況にあり、繁殖基盤と羊肉生産を一層拡大するため、部会を設立しました。部会を中心に、暑さや湿地の対策等に力を入れ、増産を進めて「江刺ひつじ」のブランドを確立し、国産羊肉の産地化を目指しています。

ＪＡおおふなと【正組合員数 6,355 人 販売品販売高 1,364 百万円（平成 29 年実績）】

<担い手対応強化（担い手支援）の取り組み>

集落営農組織の法人化および経営管理支援（キーワード：農業法人支

ＪＡのＴＡＣ（＝地域農業の担い手に出向く担当者）が、農業法人化を目指す集落営農組織の法人化へ向けたアドバイスや事業計画の作成、法人設立にかかる事務支援を行っています。また、法人設立後も記帳代行による経理事務負担軽減や、ＪＡや系統組織で実施している肥料・農薬の大口農家対策などを活用したコスト低減への提案を行っています。



ＴＡＣ職員と農事組合法人の方々

<マーケットインによる販売事業強化（生産振興の取り組み）>

ＪＡ出資型法人による高糖度トマトの産地化（キーワード：アイメック農法）



高糖度トマト

被災農家の雇用と新規就農者の育成を目的として、ＪＡの出資法人「（株）ＪＡおおふなとアグリサービス」で、高糖度トマトの栽培を行っています。高糖度トマトを生産する技術としては比較的容易な「アイメック農法」を導入し、東北では珍しい高糖度トマトの産地化を目指しています。新規就農者の農業モデルとなるよう、育成も兼ねた取り組みを進めています。

気仙小枝柿のブランド化（キーワード：柿加工場新設）

高齢化等により生産者が減少している中、「復興応援キリン絆プロジェクト」の活用により、柿加工場を新設しました。産地基盤の再構築に向け、増産を目指した植樹、新規生産者の掘り起こし等の取り組みと、トップセールスをはじめとする加工品の販路拡大、ブランド化に向けた販売強化の取り組みを行っています。



気仙小枝柿

新品目の定着・産地化（キーワード：遊休農地を活用し新品目導入）



ズッキーニ指導会

中山間地域で、新たな農業機械の導入もせず比較的労力もかからず、遊休農地を活用しやすい新品目として「かぼちゃ」と「ズッキーニ」の栽培を提案し、定着化をはかっています。営農担当者による農家巡回や指導の徹底、新規栽培者募集説明会を開催し、市場性の高い品種の選定と安定販売のため販売先の開拓に取り組んでいます。

J Aいわて平泉【正組員数 15,032 人 販売品販売高 11,904 百万円（平成 29 年実績）】

<担い手対応強化（担い手支援）の取り組み>

黄金の郷づくり推進対策事業による支援（キーワード：担い手支援事業）

地域農業を担う集落営農組織や意欲ある担い手農業者らを支援し、経営規模の拡大などを見据え3か年で3億円の予算を講じ、独自の取り組みとして展開しています。岩手県オリジナル水稲品種の栽培研究や実証圃場設置の助成支援、新規就農者実践農場設置などの助成支援に取り組み、地域農業の振興、担い手育成をはかっています。



新規就農者へのハウス導入

畜産事業での生産基盤確保対策（キーワード：子牛市場売買頭数の維持）



畜産振興対策支援として、飼養頭数の増頭へ向けた取り組みに対して経費の一部助成を実施しています。子牛・初妊牛を対象とした、導入助成や増頭を目的とした牛舎の増築・改築にかかる経費の一部を助成しています。こうした取り組みにより和牛生産部会員が減少している中、子牛市場売買頭数を維持して、「いわて南牛」の信頼向上と産地の確立をはかっています。

<マーケットインによる販売事業強化（生産振興の取り組み）>

「金色の風」世界に ASIAGAP 取得（キーワード：ASIAGAP）

県オリジナル水稲品種「金色の風」の栽培にあたり、J Aいわて平泉ブランド米部会を設立し、品質の向上やGAP取得に取り組みできました。この取り組みにより、ブランド米部会は、平成30年10月に国際水準の食品安全認証である「ASIAGAP」の団体認証をプレミアム米では東北で初めて取得しました。認証取得により、安全・安心な産地としてブランド力の更なる向上を図っていきます。



GAPチャレンジ宣言

夏秋野菜トップセールス（キーワード：行政と連携したトップセールス）



一関市長・J A組合長・平泉町長（左より）によるトップセールス

J Aいわて平泉の夏秋野菜主力5品目（トマト、ピーマン、キュウリ、ナス、ミニトマト）をセットにて取引することで取引先の棚揃えに対応し、販売拡大に取り組んでいます。加えて毎年、夏秋野菜の販売最盛期を前に、J A組合長はもとより一関市長・平泉町長の3者が揃って市場に出向き「いわて平泉」産野菜のトップセールスを展開しています。

JA全農いわて 【平成29年度事業取扱高 146,968 百万円】

「いわて純情米広域集出荷センター」を活用した 米穀保管コストの低減と実需者との結び付き比率の拡大 (キーワード：いわて純情米の安定出荷と高品質を支える県内最大級の低温倉庫)

JA全農いわてでは、本会へ米を出荷した生産者の所得向上のため、付加価値販売と流通コストの削減に継続して取り組んでいます。JA全農いわてが販売する米の約80%、9万トのお米は量販店・外食事業者・食品メーカーの実需者と結び付いており、1年を通じ安定的な品質で出荷する事が求められます。このことの実践と米穀保管経費の低減、生産者労力の軽減に貢献するため、平成24年4月に花巻市に『いわて純情米広域集出荷センター「絆」』（標準収容力18,600ト）を、平成29年9月に滝沢市に『いわて純情米県北広域集出荷センター「結」』（標準収容力12,950ト）を建設しました。



いわて純情米広域集出荷センター「絆」



いわて純情米県北広域集出荷センター「結」

「いわて純情米広域集出荷センター」の効果

- (1) 適切な温度・湿度の集中管理により、保管にかかるコストは低減。
- (2) 収容力合計30,000トを越える倉庫建設により、地域JA所有倉庫の収容能力の補完と合理化。
- (3) 直接フレコン詰めされた玄米を持ち込みができる検査場を併設し、生産者の利便性向上。
- (4) センターを核とした、JAいわてグループの米穀保管能力は、お客様から高い評価を得ており、実需者との結び付き比率は年々拡大。

	流通コスト	実需者との 結び付き比率
H28年産米	1,200円/60kg	70%
H29年産米	1,150円/60kg	76%
H30年産米 (目標)	1,120円/60kg	83%

「県内一貫生産体系モデル」の推進を通じた生産基盤の維持拡大

(キーワード：借り腹移植事業・借り腹事業産子の斡旋)



県内の肉牛生産は、生産者の高齢化に伴う戸数減少により、生産基盤は縮小傾向にあり、また、子牛価格の高騰が続いており肥育農家の再生産に大きな支障をきたしています。

JA全農いわてでは、このような事業環境を踏まえ、「県内一貫生産体系モデル」の推進を通じ、肥育農家、酪農家の営農をサポートし、県内畜産生産基盤の維持拡大を目指しています。

	借り腹移植事業 無償移植	借り腹事業 産子の斡旋
H28年度	410個	85頭
H29年度	423個	195頭
H30年度 (目標)	400個	300頭

* 借り腹事業産子の斡旋頭数には和牛改良センター産子を含む。

JAの「地域活性化・くらしやすい地域づくり」の取組事例

①JA新しいわて「JA女子カアツ塾」

JA新しいわてでは、管内の女性が学習を通じて、心豊かなくらしと地域づくりをめざすため、JA管内に在住する20代～40代の女性を対象に、様々な教室を開催しています。



ネイルアート教室



Xmas ケーキのメレンゲ作り

②JAいわて中央「イケパパ・セミナー」

JAいわて中央では、地元産食材を使用した料理で地域の食と農について理解を深めるとともに、「イケてる(素敵で・カッコいい)パパ」を目指すことを目的に、管内の小学校3年生以下の子供を持つ父親を対象にセミナーを開催しています。

③JAいわて花巻「はなまきキッズ農業塾」

JAいわて花巻では、小学校高学年を対象に、東京都中央卸売市場の見学や姉妹・友好提携を結んでいるJAのファーマーズマーケットでの販売体験を通して、農産物の流通や食と農への理解を深める取り組みを行っています。



早朝からの活気を肌で感じた市場見学



リトミック教室

④JA岩手ふるさと「子育て支援サークル」

JA岩手ふるさとでは、JA管内在住の「未就学児童をもつ保護者」を対象に、子育て支援サークル「にこにこクラブ」を設立し、交流の場を設け、会員の希望に応じて収穫体験や子育て支援活動を行っています。

⑤JA江刺「親子フェスタ」

JA江刺では、JA管内在住の小学生親子、家族を対象に地元の農畜産物についての理解を深めてもらい、農業の大切さを伝えるとともに、夏休みの思い出づくりと親子の交流の場づくりを行っています。



ぬか釜炊飯実演

⑥JAおおふなと「温泉ミニデイサービス」

JAおおふなとでは、大船渡市の委託事業として「温泉ミニデイサービス」を実施し、五葉温泉の入浴に加え、専門家による健康教育や食事指導を実施して、健康と生きがいづくりをサポートしています。



ボールを使った高齢者にもできる軽運動



「田んぼの先生」による田植え体験・指導

⑦JAいわて平泉「食農教育支援」

JAいわて平泉では、JA管内の保育園・幼稚園、小学校を対象に「田んぼの先生」（農地提供者・青年部員・JA職員）と「畑の先生」（女性部員等）の派遣を通じて、園児・児童向けに「農業体験」を協力・提供しています。また、学校農園（畑）ではJA管内すべての希望する小学校に対してサツマイモ等の野菜の苗や種子を無償で提供しています。

JA綱領—わたしたちJAのめざすもの—

わたしたちJAの組合員・役職員は、協同組合運動の基本的な定義・価値・原則（自主、自立、参加、民主的運営、公正、連帯等）に基づき行動します。

そして、地球的視野に立って環境変化を見通し、組織・事業・経営の革新をはかります。さらに、地域・全国・世界の協同組合の仲間と連携し、より民主的で公正な社会の実現に努めます。

このため、わたしたちは次のことを通じ、農業と地域社会に根ざした組織としての社会的役割を誠実に果たします。

わたしたちは、

1. 地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう。
1. 環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。
1. JAへの積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現しよう。
1. 自主・自立と民主的運営の基本に立ち、JAを健全に経営し信頼を高めよう。
1. 協同の理念を学び実践を通じて、共に生きがいを追求しよう。

自己 改革

JAが変わる!

農業が変わる!

地域が変わる!



JAいわてグループは、農家組合員の所得増大と
地域の活性化に**全力**を尽くします!